平成２３年度全国学力・学習状況調査（希望利用調査）

富良野市における調査結果の概要

平成２４年３月　富良野市教育委員会

本市の学力・学習状況調査の結果は、全ての小学校の国語Ｂ・算数Ｂ、中学校の国語Ｂ・数学Ｂ問題で、全道の平均を上回る結果となった。

全体的に記述式・短答式の問題で正答率が高い傾向にある。本市においては授業時間と授業時間以外で特徴的な取り組みがなされており、児童・生徒が学習をするための体制が確立されつつあるが、更なる学力向上に向けた取り組みとして、より一層の指導方法の工夫改善等を図っていく必要がある。

１．学校支援ボランティアによる読み聞かせや朝読書などの取り組みについて

本市では、全ての小・中学校で朝読書など一斉読書の時間を設けている。

児童・生徒質問の回答を見ると、「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」と答えた割合が、小・中学校ともに全道より高い。国語科の結果の、学習指導要領の領域等の区分別平均正答率を見ると「読むこと」の区分で正答率が全道より高い傾向にある。本を読むことが正答率向上に繋がっていることが傾向として表れている。

しかし、小・中学校の半数以上の児童・生徒が「国語 B-3 の問題にあるような、長い文章を読むのは難しい」と答えており、同質問のクロス集計を見ると「難しいとは思わない」と答えた児童・生徒が正答数の多い層に偏っていることから、読書の成果に個人差があることが分かる。また、自宅での読書の時間が少なく、土・日の図書館利用の割合も少ないなど、継続と発展が望まれる取り組みである。

各学校の学校改善プランには、朝読書の継続・読書の時間を増やすといった量的な方策と、全ての教科で役立つ様な読書の方法を考える、図書館との連携を強めるという質的な方策を取り上げ、改善を図る方針である。

２．市内小中学校における教科指導等の状況について

「本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くように指導した」「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした」「資料を使って発表ができるように指導した」と答えた学校が多く、児童・

生徒が自分で調べた内容をまとめることが身についており、記述式問題の正答率向上に繋がっていることが傾向として現れている。

市内全体の取り組みとして、理解への広がりや深まりを目指すため、発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程により、習熟度別指導や少人数指導など、指導方法の工夫改善を更に図る必要がある。

また、学校の教育活動に地域の人が学校支援ボランティアや外部講師として参加することが全道に比べて極めて高く、指導の内容にバリエーションがあることが本市の特徴である。

３．長期休業中や土曜日等を活用した学習サポートの状況について

長期休業中や土曜日を活用した学習サポートは全道的に低く、本市でもまだ十分とは言えない状況にあるが、「放課後を利用した学習サポート」「家庭学習やその取り組み方に関する指導」「児童・生徒の家庭学習を促す保護者への働き」「学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導」などの、教科書の内容や普段の授業以外の学習サポートを行った割合は全道より高い傾向にある。

児童・生徒質問紙を見ると、「復習をしている」と答えた割合が高く、「予習や苦手な教科の勉強を行っている」と答えた割合は、小学校では全道より低いが、中学校では全道より高くなっており、生徒自ら家庭学習の方法を工夫し、意欲的に取り組むようになっていることが分かる。

本市の課題としては、家庭学習が復習とともに予習も取り入れるなど、学習面の充実させることが挙げられるが、今後の各学校の取り組みとして、先ず朝学習、放課後等に補習授業の時間を確保することや家庭との連携を強め、家庭学習の内容の充実、家庭学習の習慣化を図る取り組みを推進していくことが必要である。

４．児童・生徒の意識とその特徴について（児童・生徒質問紙より）

本市においては、「記述式問題で最後まであきらめずに書こうとした」「問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考える」「家庭学習を行った」「数学ができるようになりたい」と答えた児童・生徒が多く、**学習意欲が全道に比べて高いことが分かる。**

また、「国語・算数（数学）の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役立つと思う」「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」と答えた児童・生徒、「児童・生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」と答えた学校が多く、**自分と社会の関係を意識できており、学習意欲を底上げしている。**

生活面では、「学校のきまりを守っている」「友達との約束を守っている」「人が困っているときは、進んで助けている」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」**「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」**「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の質問項目において全道より高い傾向にあり、特に、クロス集計を見ると、**「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童・生徒の割合が高い傾向にある。**

5．国語（A・B）の実施結果について

学校別質問紙の回答を見ると「国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」「国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った」「国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と答えた学校が多い。

小学校の国語では、「話すこと・聞くこと」の区分で A・B ともに全道を上回り、多くの小学校で、主語、述語の照合や、主語を置き換える問題、文章を比較する問題で正答率が低く、各学校改善プランでは、「要約」「感想文」「作文」など、相手や目的を意識した文章を書く機会を増やすことを挙げている。

中学校の国語では、「書くこと」「読むこと」の分野でA・Bともに全道を上回り、特に国語Bでは、「言語事項」の分野で全道を大きく上回った。

また、国語Bを評価の観点別に見ると、「国語への関心・意欲・態度」の区分で、問題形式別に見ると、「記述式」の区分で全道を大きく上回り、話し合いや文章の展開から、登場人物や内容を捉える問題の点数が低く、学校によっては基礎知識の習得に課題が見られる。

全体的に平均点が高いが、各学校の学校改善プランでは、より一層の向上を目指して基礎・基本の確実な習得を挙げるとともに、発展的な内容として、話し合いの時間を増やす・限られた字数で自分の考えや感想を文章にまとめる練習など、これらを着実に実践していくことが大切である。

6．算数（A・B）・数学（A・B）の実施結果について

小学校の算数Aでは「数と計算」・「数量関係」の区分で全道を下回ったが、「量と測定」「図形」の区分で全道を上回り、全体の平均正答率は全道より高くなった。算数Bでは、全体の平均正答率は全道より高いが、「数と計算」の区分で全道を下回っている。

算数A・Bともに点数が高く、全道の平均を上回ったが、学校間・個人間で点数にばらつきが見られる。各学校の学校改善プランでは、反復学習や基礎を効率よく応用する指導、個別指導を挙げており、着実な実践が必要である。

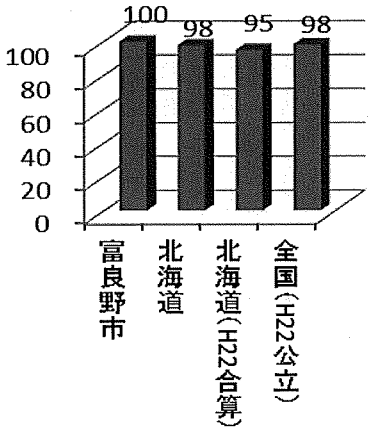
中学校の数学 A では、「数量関係」の区分で特に平均正答率が低かったが、

数学 B では同区分の平均正答率は全道を上回った。関数、反比例、図形問題では全道の平均を上回っているが、点数が低い傾向にある。

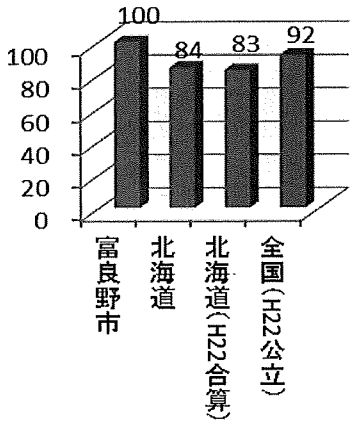
全体的には、高い平均正答率を示しているが、区分により差が見られ、小学校、中学校ともに発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による指導により、理解への広がりや深まりを更に図る必要がある。

生活習慣や学習環境調査（児童質問紙調査）の結果

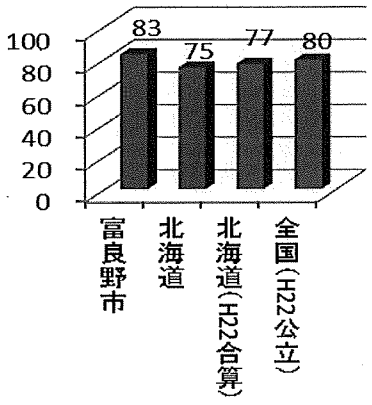
「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けたと答えた小学校の割合



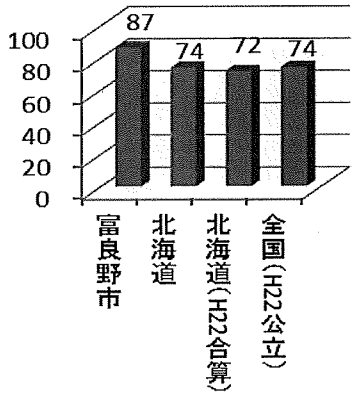
「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けたと答えた中学校の割合



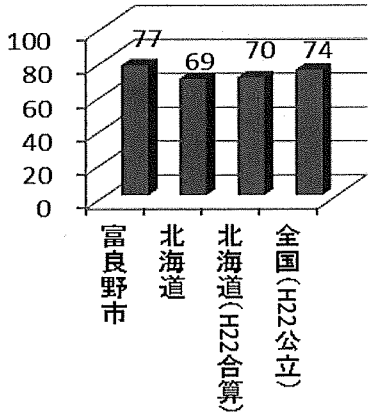
人が困っているときは，進んで助けていると答えた児童の割合



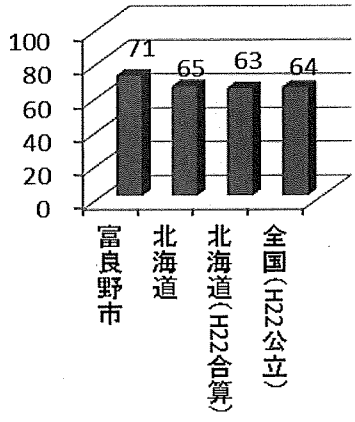
人が困っているときは，進んで助けていると答えた生徒の割合



難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦していると答えた児童の割合

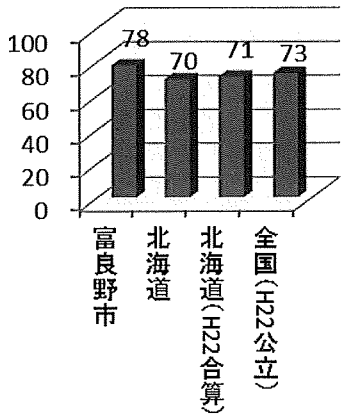


難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦していると答えた生徒の割合

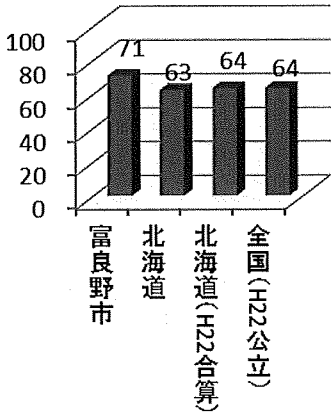


生活習慣や学習環境調査（児童質問紙調査）の結果

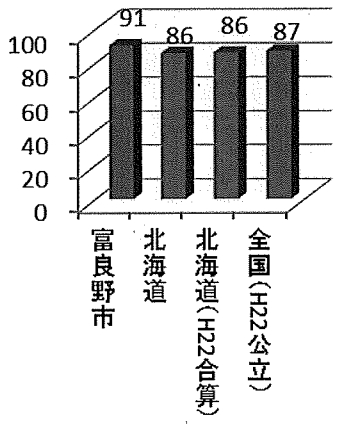
国語の授業で文章を読むとき，段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいると答えた児童の割合



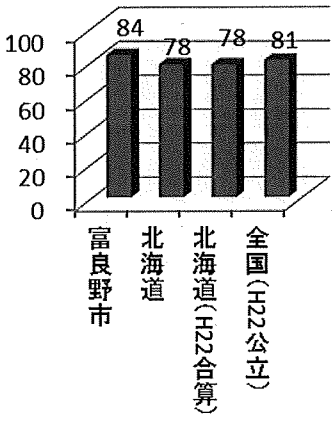
国語の授業で文章を読むとき，段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいると答えた生徒の割合



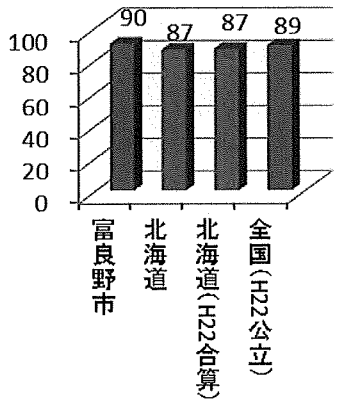
国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思うと答えた児童の割合



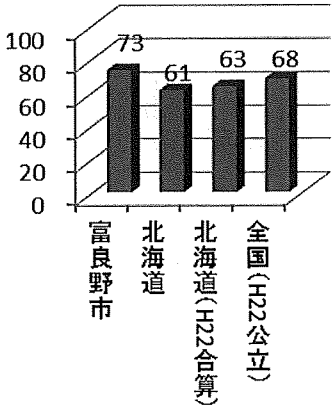
国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思うと答えた生徒の割合



算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思うと答えた児童の割合



数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思うと答えた生徒の割合



「すべては子どもたちのために」

【教育委員会では】

1　未来を担う子どもたちが自ら学び、自ら考える力を育成します。
2　学力の確実な定着を図り、生きる力を育成します。
3　様々な体験や経験、スポーツ等を通じて社会性を身につけ、人格形成に努めます。

今後とも、教育環境の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となった、学習・生活習慣づくりを推進します。

【学校では】

1　定期的に授業を公開し、成果や課題について常に検証に努める教育活動（実践検証的な研修に基づいた教育活動）を推進します。
2　児童生徒が発表する場面を積極的に取り入れ、自ら学ぶ意欲を育てます。
3　児童生徒の学習活動だけではなく、これまでと同様に、様々な体験学習やスポーツ等を通じて社会性を身に付けた人格の形成を目指します。
4　家庭学習の定着化に向け、宿題の出し方の工夫等を図ります。

【家庭では】

1　「早寝・早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん」運動を習慣化しましょう。
2　毎月第１日曜日に家族団らんの時間を設け、テレビ、ゲーム等をちょっと休んで、家族の団らんやスポーツ等でコミュニケーションを深めましょう。
3　毎日、目標を立てて計画的に家庭学習（予習・復習など）に取り組みましょう。
4　「ほめて、伸ばす」家庭教育に取り組みましょう。

【地域では】

1　他人を思いやる豊かな心や社会のルールを守る環境づくりを進めましょう。
2　地域の子ども達を守り育てる環境づくりを進めましょう。
3　「学校の応援団」として、学校支援ボランティアへの登録と支援をお願いします。

富良野市教育委員会　学校教育課　電話　０１６７－３９－２３２０